

日付:2015年5月3日／聖書:使徒言行録15:1～21

主題:「教会の議論」

今朝の使徒言行録は、「エルサレム会議」と呼ばれる。異邦人の地にあるアンティオキア教会の中で重大な議論が起きた。それは、ユダヤ人以外の異邦人にキリスト者が増えて行く中での「割礼問題」である。律法を重んずるユダヤ人キリスト者が異邦人も割礼を受けなければ救われないと主張した。それに対し、「イエス・キリストの十字架は、ユダヤ人にも、ギリシア人にも、男も女もすべての人を義とする恵みである」とする者たちがいて、教会の議論となった。

その解決のためにパウロとバルナバは、エルサレム教会に出向き、この問題について協議するために使徒たちと長老たちが集まった。白熱した議論が展開されたが、この問題の解決に何があったのかを見て行くことが大事になる。7節で、《議論を重ねた後、ペトロが立って彼らに言った…》とある。このペトロの発言には、彼自身の経験、証しが背景にあったのである。使徒言行録10章に出て来る。実はペトロ自身も律法にこだわり、異邦人に対する偏見があった。しかし、ペトロが幻を見られ、「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない」と三度促された経験が、証しとなって、このペトロの発言になっている。次に、12節では、バルナバとパウロが、自分たちを通して神が異邦人の間で行われた、あらゆるしるしと不思議な業について語った。そして今度は、ヤコブが聖書の言葉から結論を出して行くということをした。

この議論の展開に、「教会の議論」の模範があるということだろう。私たち教会の議論、話し合いの内には、常に神が何をされたのか、イエスがどう歩まれたのか、私たちがどう神と出会い、憐れみと恵みを頂いているのか。常に共におられる神を覚えながら、私たち「教会の議論」が成されて行くことを覚えたい。今月、教会総会を迎える中で良き備えしていきたい。(神谷)